

# 大谷池（おおたにいけ）

位置図



## 諸元

貯水量	536	千m <sup>3</sup>
満水面積	9.4	ha
受益面積	45.5	ha
堤高	14	m
堤長	267	m

高松空港方面に向かって、県道国分寺琴南線からゴルフ場への道を東に入ると、綾川町昭和地域の大切な養い親と言われる「大谷池」があります。

ため池の築造は天文年間（1532～1555年）、築造当時は今のおよそ半分程度で池の中ほどには昔の堤防跡が残っています。その後、承応3年（1654年）の大勢の餓死者の出た大干ばつの対策として、藩主松平頼重の命で改築され現在の規模となりました。さらに元禄14年（1701年）に千疋から畑田に通じる用水路が新設され、丘陵地帯のため連年干ばつとなり畑ばかりであった畑田の地に水田が開かれたと言われていいます。

また、長い歴史の中で地震による被害を3度も受けた記録が残っており、また干ばつにも頻繁に見舞われ、これらの度に改築・改修を重ね、近年には平成2年（1990年）に県営ため池等整備事業（大規模）にて再改修され、現在の大谷池となっています。

遠い祖先が丘陵の地を開墾して稲作を始めて以来、かんがい用水の不足のために苦労を続けてきましたが、昭和34年（1959年）の香東川からの池西幹線水路の通水、さらに昭和50年（1975年）の香川用水完成によりかんがい用水は豊かとなり、他の地域に先がけて水利組合が、従来の配水管理を合理的に改変したため池ともいわれています。現在も受益農地では水稻を中心にブロッコリーや玉ねぎなど、豊かな実りが育まれています。



大谷池（全景）



西側から堤体を望む